

第2章 theを使う表現

筆者は、aとtheをまとめて「冠詞」とくくるのは、あまり好きではありません。aとtheでは、ずいぶん役割が違うからです。aは、後ろにくるのがどんな名詞なのかを示唆してくれる単語です（だから初めて話題に出てきたモノ、「不定」のモノについて使います）。後ろには、数えられる名詞の単数形がきます。

これに対して、**theは、後ろにくる名詞については何も語っていません**。後ろにくるのが可算名詞なのか、不可算名詞なのか、単数なのか複数なのか——aとは異なり、theを見ただけでは後ろに置かれる単語について、何もわからないのです。

theを見てわかることは、後ろにくる単語には、何かtheを付ける理由があるのだな、ということだけです。

theを付ける理由が何なのか——前に出ている名詞を受けているということなのか、あるいは、後ろの名詞がtheを付けて使う単語だからなのかなど——は、theという単語を見ただけでは、まったくわかりません。だから、theは難しく、謎の記号のように感じられてしまいます。

意欲のある生徒は、theを理解しようと文法書に手を伸ばしますが、残念なことにtheの使い方は、文法書を読んでも、どうもすっきりしません。

文法書のtheの項目は、ほとんどが、学者たちの昆虫採集の標本みたいで、「これにはtheを付ける。こっちにはaを付ける」と並べてあるだけで、「げっ、これを覚えるのか...」みたいな気分になってしまうのです。けれども、難解に思える文法書も、“theの

考え方の原則”がわかれば理解できます。

この章では、theの原則的な考えたと、高校・大学受験レベルのtheの使い方を確認していくことにしましょう。

(1) theの使い方のまとめ

theには、おおまかに次のような4つの使い方があります。

① 前に出てきたものを指すthe

（文法では「前方照応」(anaphoric reference) と呼びます）
theの一番の基本である、I have a book in my bag. I bought the book yesterday. のtheがこれにあたります。

② 後ろの表現によって限定されるthe

（文法では「後方照応」(cataphoric reference) と呼びます）
たとえば、the door of my roomという表現では、doorは、後ろのof my roomによって限定されているのでtheを付けます。「限定」とは、つまり、私の部屋のドアは1つしかなくて、それが相手にもわかっている、あるいはすぐに想像できる場面のことです。この場面をof my roomが作り出しているのです。

③ 状況によって限定されるthe

（文法では「場面状況照応」(situational reference) と呼びます）
前の章で取り上げた、「駅はどこですか」を英訳するときに、「駅 (station)」に付けるthe、すなわち、話の流れの中でお互いどの駅について語っているか、わかっているときに付けるtheです。

④ 後ろの名詞によって決まるthe

たとえば、太陽the sun、世界the worldには、通常theを付けて使います。sunやworldは1つしかないと考えられるからです。1つしかないものには、theを付けます。

他には、theを付けて使う慣用句や熟語がありますが、それらも